

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	実習機関における基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する。)は不可に値する。実習園の指示に誠実に従い、積極的に園児と関わること。			70	20
レポート／作品					
発表					
小テスト					
試験					
その他	実習日誌の内容から、実習前・実習中に授かった指導が反映されているかどうかを確認する。また、日誌の他、諸書類の提出日が厳守されているかどうかとも評価の対象とする。			10	
合 計				80	20

回数	授業計画
1	1年次11月〔観察実習5日間〕
2	◇幼児との関わりを通して幼稚園教育や幼児に対する興味・関心を深め、教育者としての愛情や使命感を育てる。
3	◇年少・年中・年長の子どものたちの生活や発達の違いに気づき、クラス配属を通して、1日の生活の流れや、教師の子どもとの関わり方、教育の在り方について、観察・参加・記録を通じ学んでいく。
4	
5	
6	2年次6月〔総合実習15日間〕
7	◇幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児指導(教育)の方法や、保育者の在り方を学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の保育者としての適性や課題について考える。
8	
9	◇観察・参加・部分・責任という実習の各段階を順次経験し、子どもとの生活を通して、子どもの実態や発達課題、あるいは教育者の様々な役割について具体的に学ぶ。また教育者の子どもへの関わりやその意図を注意深く観察し、事実に基づいて記録を行う。
10	
11	◇教育者の指導の下、指導案を作成し、実践を通じて、今後の自己の課題を見出す。
12	◇教育実習園の学習経営方針や特色ある教育活動に触れ、これらを実施するための組織体制について理解する。
13	
14	この科目だけで実習が完成される訳ではない。実習後は深く内省を行い、事後学習とする。更なる自己課題を持ち、教育実習事前事後指導をはじめとするあらゆる授業を通して、学びを深めていく。
15	